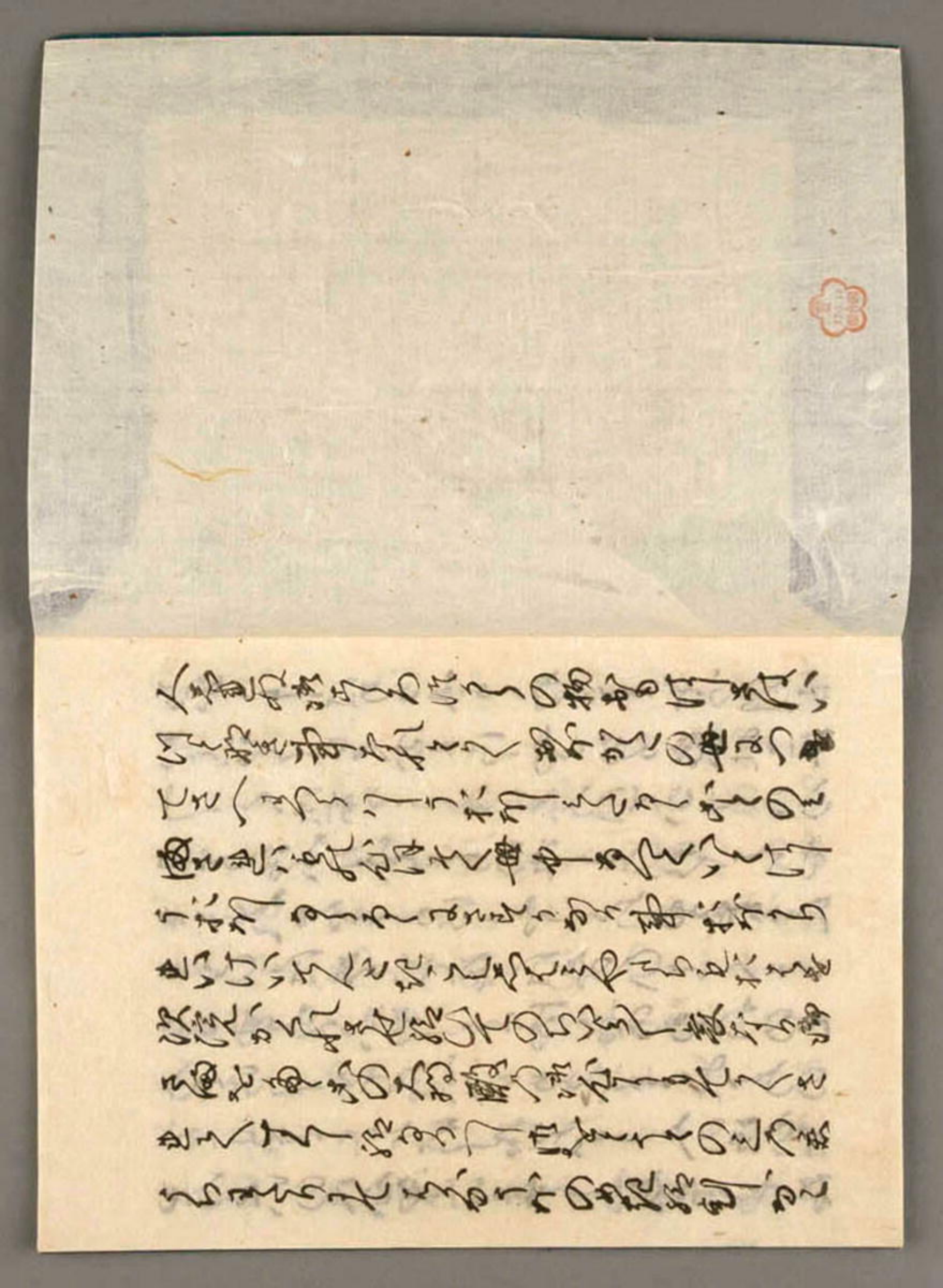
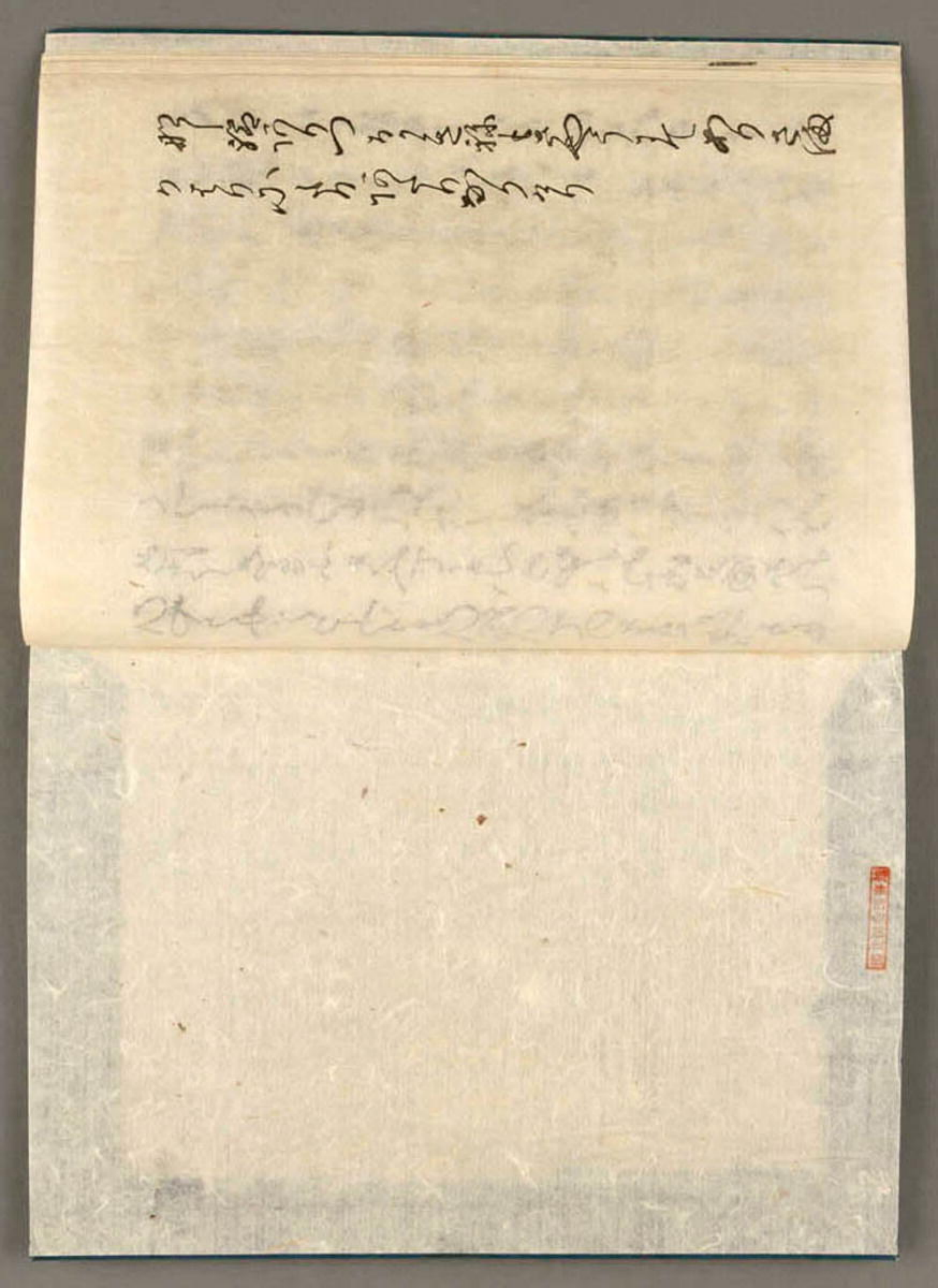
WA 7
(11)
263

乱月の墨



をそれいのこれを川遠路
まちあつりえ琴無れぬほとしきには
のうゑひ(ﾄ)曲くのうき琴りえんてんとに
川し紀やのみしの流はまく人てぬそりさ莉さ
紀を守しよあ、われとこいつて思家しき
よりそ沈考りそくさ曲まりやうかりきし紀
とを志く数うめくかり、へ一
晴らくさら姻あとをしぬれと何事に
かけり母さまれのそうし河うりたと歳
とされてもうしくらへしう紀琴をとそ

はなと人遠遁ぬ心にしく琴たりもいつれまさ思ひ
なりさも流くむへきてしそうしとてしるり母
とわれく河そうかりうやうの紀いそり流て
のまきらからうそけありしるやまうか
かしなりいつかりよつきくも流心のいて梅かく
らに紀しけかりもし月とへてきかはりやうま
みしぬさりかきけすりし路ぬ母しと中く
めきらう人の物思ひくさかりりのかいのてこ
ろてお流しやりつりとさろく人めかくさろ
まそかくとそり何りさ梅とを於まよ是いてめも